

京都が育んだ

華道と茶道

佐伯 順子

同志社大学社会学部教授
同志社大学人文科学研究所第20期第14研究代表

伝統文化の集積地である京都は、華道、茶道の双方において古い歴史を有しています。両者はそれぞれ、日本文化を代表するものとして、海外での講演や普及活動等も行われており、それぞれが歴史的にも社会的にも支えあう関係にあります。同志社大学人文科学研究所第20期第14研究班では、「京都と茶文化研究センター」とも連携しながら、京都が育んだ茶文化と現代社会との関係について、産学官の連携による研究を進めておりますが、このたびは、京都を拠点として国内外で活躍の未生流笹岡お家元・笹岡隆甫先生のご講演、先生を囲んでのパネルディスカッションにおいて、日本の伝統文化の象徴ともいえるお花とお茶について、学際的、国際的な視点から考える講演会を催すこととなりました。

後半のディスカッションでは、茶の湯文化に関連する情報を、新聞記事やご著書で発信されている読売新聞の森恭彦先生、近世京都の学問所であった有斐斎弘道館で、多彩な日本文化関係の活動を展開されている太田達先生に加わっていただき、日本の伝統文化の現状とその社会的意義、今日的課題と可能性について、幅広くお話できればと思っております。

登壇者プロフィール

● 笹岡 隆甫 (ささおか りゅうほ)

華道「未生流笹岡」家元。京都ノートルダム女子大学客員教授。大正大学客員教授。京都市教育委員会委員。1974年京都生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。舞台芸術としてのいけばなの可能性を追求し、日本ースイス 国交樹立150周年記念式典をはじめ、海外での公式行事でも、いけばなパフォーマンスを披露。2016年には、G7伊勢志摩サミットの会場装花を担当した。近著に『いけばな』（新潮新書）。

● 森 恭彦 (もり やすひこ)

読売新聞大阪本社編集局編集委員。京都大学文学部仏文科卒業、読売新聞文化部記者として、茶文化をはじめ、上方文化を精力的に取材し、メディアで発信。著書に『茶の湯あいうえお』（淡交社）、『茶道史ゆかりの地を歩く』（同前）。

● 太田 達 (おおた とおる)

1957年京都生まれ。島根大学農学部卒業。京都工芸繊維大学大学院博士課程修了。工学博士。株式会社有職菓子御調進所 老松代表取締役社長。公益財団法人弘道館代表理事。池坊短期大学教授を経て、立命館大学国際関係学部非常勤講師。著作に『源氏物語と菓子』（剛書院）、編著に、『京の花街一ひと・わざ・まちー』（日本評論社）、『調理用語辞典』（調理師養成施設協会）、共著に『茶道学体系 巻4 懐石と菓子』（淡交社）、『菓子の茶事を楽しむ』（淡交社）、『茶道のきほん』（メイツ出版）、『平成のちゃかぼん』（淡交社）などがある。NHK「きょうの料理」、「ようこそ先輩」、「日めぐり万葉集」ほか出演多数。

● 佐伯 順子 (さえき じゅんこ)

同志社大学京都と茶文化研究センター長。ジェンダーとメディア、女性文化史研究。著書に『「色」と「愛」の比較の文化史』（サントリー学芸賞、山崎賞）『明治く美人>論ーメディアは女性をどう変えたか』など。